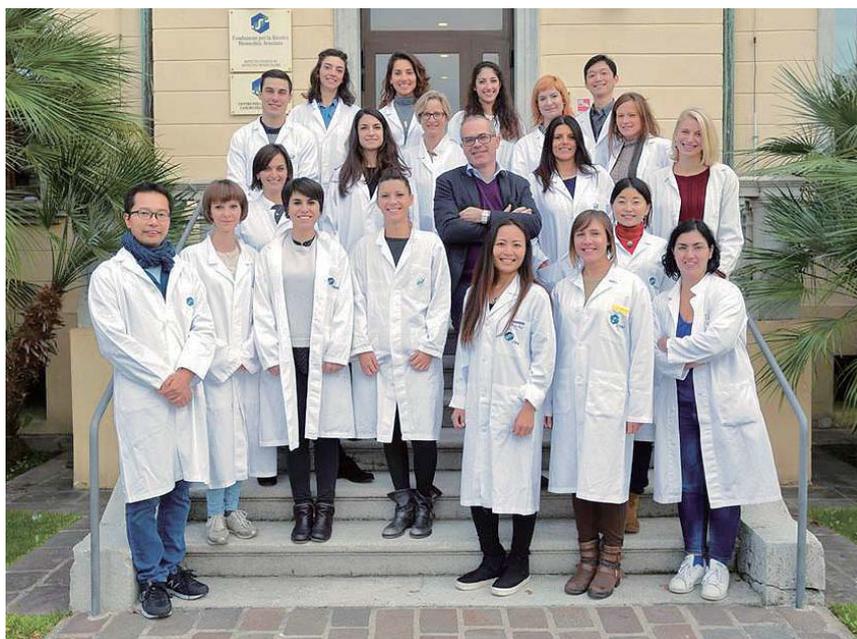


世界に羽ばたく小児科医の育成に向けて



財団設立10周年記念シンポジウム

小児医学研究振興財団の
国際交流活動～世界に羽ばたく
小児科医の育成に向けて～

平成31年4月21日(日)

13:40～15:40

於 石川県立音楽堂邦楽ホール

海外留学経験者と留学を志す若手小児科医の
トークセッションを第122回日本小児科学会学術集会
会期中に開催します(詳細:中面P3)

平成31(2019)年度事業

研究助成金・海外留学フェローシップに
新たな分野を新設します!(詳細:4面)

特別寄稿

『巨人の肩に乗って』



金沢大学医薬保健研究域医学系
小児科主任教授
第122回日本小児科学会学術集会会頭
谷内江 昭宏

小児科医となって40年。この間、医療はめざましく変貌しました。小児科医が診療する疾患のスペクトラムが変化したと同時に、疾患についての知識や診療を支える技術が大きく変わりました。蘊蓄や経験の医学ではなく、エビデンスに裏打ちされた良質の医学教育と臨床研修が、安定した確かな医療を実現しつつあります。コンピューターの発達はAIを駆使した医療革命を生み出し、臨床医が扱える情報の量と質を格段に増加させました。またオミクス分析により全く新しい視点からの疾患理解が可能となり、システムバイオロジーの発達は複雑系であるヒトの体のしくみを科学的なことばで記述可能なものとしつつあります。聴診器と黎明期の超音波、そして無骨なCTスキャンで始まった私自身の小児科医としての生活は、はるかに洗練されて強力な画像診断ツールを携えたState-of-the-Artの武具を身にまとう医療へと変遷してきました。

一方、医療は多くの先人が残してくれた数々の偉業と、目立つことのない小さな発見と数え切れない貴重な症例記載の蓄積によって成り立っています。蓄積されたものを消費するだけでなく、常に新しい発見がなされる必要があります。ニュートンが知人への手紙で述べたように、どのように優れた発見であっても、先行する巨人の肩(業績)の上に乗ることによって初めて可能となります。しかし、ニュートン自身に自らが見た景色を理解し、その途方もない意味を新しいことばで記載する能力がなければ、科学の発展がなかったのも確かです。目の前のこどもから何を読み取るか、若い小児科医には本物の臨床能力、そして研究者としてのセンスを持つことを期待します。指導者は、若者に新しい景色を見る力を、目の前の風景に驚き感動する心“sense of wonder”を教えることが求められています。私自身の経験でも、海外留学は自らの世界を俯瞰し、その意味に気づく良いきっかけとなることでしょう。

● 日本イーライリリー海外留学フェローシップ



名古屋大学医学部附属病院
総合周産期母子医療センター・医員

北瀬 悠磨

後天性症候性水頭症におけるメカニズムの解明と
その発達障害への新規治療法の開発

この度海外留学フェローシップに採択頂き心より感謝申し上げます。私はこれまで低酸素性虚血脳症、胎児発育遅延に対する幹細胞を用いた新規治療法の開発に取り組んできました。今後は後天性症候性水頭症におけるメカニズムや発達障害について理解を深め、将来の我が国の小児医療に少しでも貢献できるようより一層精進して参りたいと思います。このような貴重な機会を与えて頂きました貴財団の皆様がこの場をお借りして心より御礼申し上げます。

● 小児医学研究振興財団アワード



広島市立広島市民病院小児科副部長・循環器小児科副部長

森藤 祐次

学校心臓検診における心房中隔欠損の抽出精度
向上のために有用な心電図所見

日本小児科学会雑誌2018;122(9):1423-1428

当施設では先天性心疾患に対するカテーテル治療を積極的に行っています。心房中隔欠損は成人例も多く、右心不全や心房細動を発症している症例を経験する中で、学校心臓検診の重要性・課題を検討したいと考え本研究を行いました。本論文を作成するにあたり御指導頂いた鎌田政博先生はじめ共著の先生方、また査読頂いた先生方に感謝申し上げます。末尾となりましたが、名誉ある賞を授けてくださった貴財団がこの場をお借りして深謝申し上げます。



日本医科大学研究部共同研究施設分子解析研究室・助教

塩澤 裕介

Effect of i.v. immunoglobulin in the first 4 days of
illness in Kawasaki disease

Pediatrics International 2018;60(10):334-341

このような名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。本論文は、川崎病に対する第4病日以前の免疫グロブリン大量療法の有効

性を調べるため、東京大学医学部附属病院とその関連施設で行った観察研究の結果です。長年にわたり小児医療に携わってこられたスタッフの皆様、ご多用の中データ収集にご協力くださった先生方、論文執筆についてご指導くださいました岡明教授、犬塚亮先生を始めとする先生方に心より感謝申し上げます。この受賞を励みに一層の精進を重ねてまいります。誠にありがとうございました。

● 日本イーライリリーアワード



愛知県医療療育総合センター中央病院小児神経科・医長

倉橋 直子

Is hiragana decoding impaired in children with
periventricular leukomalacia?

Brain&Development 2018;40(10):850-856

このような栄えある賞にお選びいただき、誠にありがとうございます。この論文では、学童期のPVL児らのひらがな読み速度遅延に、ひらがな音韻化ネットワークの障害が関与した可能性について報告いたしました。NICU卒業生の診療と研究の発展に、少しでも貢献できましたら幸いです。今回の研究にあたりご協力くださった患者様とご家族の皆様、手厚くご指導くださった中村みほ先生と他共著の先生方、そして私を支えてくれた家族に、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。



神戸大学大学院医学研究科小児科学分野・特定助教

前山 花織

乳幼児期における発達障害特性と感覚特性との
関連についての検討

小児の精神と神経 2018;58(3):201-207

この度は身に余る光栄な賞に選出して頂き、心より感謝申し上げます。本論文は、療育センターを受診した児を対象に、自閉スペクトラム症と知的障害の有無によって感覚処理機能に差があるかを検討しました。本研究の結果が、少しでも実臨床の一助となれば幸いに思います。最後に、ご指導頂いた共著の先生方、査読頂いた先生方に御礼申し上げます。今後もこの受賞を励みに精進していきたいと存じます。

財団設立10周年記念事業シンポジウム

小児医学研究振興財団の
国際交流活動

～世界に羽ばたく
小児科医の育成に向けて～

第122回 日本小児科学会学術集会会期中に
総合シンポジウムを開催いたします
(総合シンポジウム 10)

日時 平成31年4月21日(日)
13:40~15:40

場所 石川県立音楽堂邦楽ホール(2階)

座長：廣瀬 伸一 (福岡大学医学部小児科主任教授)

講演1 ● 米国の医師育成システムから学んだ医師としての生き方

金子 一成 (関西医科大学小児科主任教授)

※2004年 財団フェローシップにて留学

講演2 ● 米国の治療システムに学ぶ：

Summer Treatment Programの実践と多職種連携の実現

山下 裕史朗 (久留米大学医学部小児科主任教授)

※2003年 財団フェローシップにて留学

● 若手医師トークセッション参加者

山口 有紗 (国立成育医療研究センターこころの診療部フェロー)

松田 裕介 (金沢大学医学部医薬保健研究域医学系小児科学講座大学院生)

竹澤 祐介 (東北大学大学院医学系研究科発生発達医学講座小児病態学分野医員)

池本 智 (東京慈恵会医科大学小児科学講座助教)

※詳細は日本小児科学会雑誌2月号(第123巻第2号)P169-170をご覧ください。

平成30年度 研究助成事業 選考結果

平成30年度交付対象者が下記のとおり決定いたしました。

研究助成金

(1) 小児科領域全般研究助成金

磯部 知弥	東京大学医学部附属病院 小児科・研修登録医	乳児白血病の網羅的ゲノム・エピゲノム解析による新規疾患層別化マーカー、及び治療標的の探索
戸子台和哲	東北大学病院総合外科移植 肝臓班・助教	羊膜上皮細胞を用いた先天性代謝異常症に対する低侵襲細胞移植療法の確立 副題：凝固・補体系のクロストーク抑制による羊膜上皮細胞移植後 Instant blood-mediated inflammatory reaction 制御プロトコルの確立
磯田 健志	東京医科歯科大学附属病院 小児科・助教	免疫不全症、がんクローン進化に関与する非コードRNA転写異常症の同定法の確立 副題：T細胞系列決定に必須の非コードRNA(ThymoD)転写とスーパーエンハンサーの初期活性化メカニズムの解明
郷 勇人	福島県立医科大学医学部 小児科学講座・助教	新生児慢性肺疾患におけるmiR-21の役割解明と臨床応用に関する研究 副題：miR-21ノックアウトマウスと新生児慢性肺疾患患者体液エクソソームを用いたトランスレーション研究
廣野 恵一	富山大学附属病院小児科・特命講師	心筋緻密化障害の病態解明 副題：転写因子TBX5下流経路の重要性に着目して
永田 絵子	浜松医科大学医学部附属病院 臨床研究管理センター・特任講師	乳児血管腫を対象としたプロプラノロールクリームの有効性について 副題：乳児血管腫を対象としたプロプラノロールクリームの実施共同非盲検非対照第Ⅱ相試験
竹内 純	東京医科歯科大学難治疾患研究所・ 准教授	エピジェネティック作用による先天性心臓・上肢疾患発症重篤化 副題：ヒト心室中隔欠損・左室低形成不全症の発症責任遺伝子 <i>TBX5-NKX2-5-GATA4</i> をモデルとして
菊地 顕	京都府立医科大学小児科学教室・ 特任助教	鶏卵漿尿膜使用横紋筋肉腫組織移植モデルの作成 副題：横紋筋肉腫患者個別化医療のための鶏卵漿尿膜法 (CAM assay) を使用した患者腫瘍組織移植 (PDX) モデル作成の基礎的検討を行う

(2) アサヒグループ食品(乳幼児栄養)研究助成金

東海林宏道	順天堂大学大学院小児思春期 発達・病態学・准教授	胎児期の低栄養が骨格筋形成に及ぼす影響の解明 -iTRAQを用いたプロテオーム解析による検討-
友滝 清一	京都大学医学部附属病院小児科・医員	メタボリックシンドロームの予防を目指した、新生児の腸内細菌叢と消化管ホルモン動態の解析
和田 陽一	東北大学小児病態学分野 大学院生 (平成31年3月卒業予定)	新規に同定したガラクトース血症における国内頻度と臨床像に関する研究 -適切な確定診断およびフォローアップ体制の構築を目指して-



留学体験記



イタリア、ベネチア分子医学研究所(VIMM)留学体験記

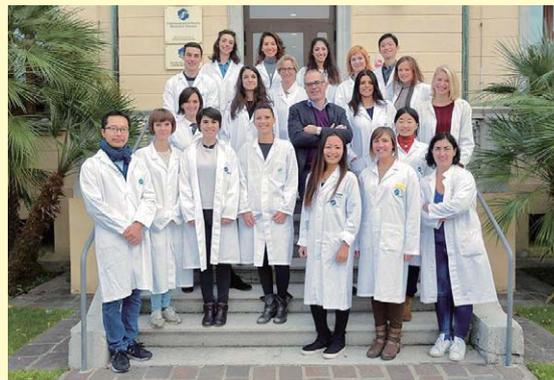


福井大学子どものこころの
発達センター・助教

岩田 圭子

私は平成28年度小児医学研究振興財団の海外留学フェローシップの御援助の下、平成30年4月から平成31年3月まで、イタリア、ベネチア分子医学研究所(VIMM)に研究留学させて頂きました。頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「酸化ストレス仮説に基づく新規精神疾患創薬のための国際共同研究」(S2603)の派遣研究員としてパドヴァ大学、生物学部門(Prof. Scorrano)にて行っていた研究を引き続きProf. Scorranoの研究室にて行う形でした。これら研究機関があるパドヴァは、大学の町としてもよく知られ、パドヴァ大学はイタリアで2番目に古く歴史ある大学です。VIMMとパドヴァ大学とは強い提携体勢で研究を行っており、Prof. Scorrano(VIMMサイエンティフィックディレクター/パドヴァ大学生物学部門教授)はミトコンドリア研究のエキスパートであり、特にミトコンドリアダイナミクスに関わる分子の重要性を世界に先駆けて報告してきました。当研究室では、ミトコンドリア研究を最先端かつ多角的に進めており、優秀な研究者が多数在籍しております。私は、これまで発達障害に関する研究を基礎・臨床両面から行ってきました。Prof. Scorrano研究室では、ミトコンドリアのこれら疾患への関与に着目した研究を行い、ミトコンドリアダイナミクスが中枢神経系の発生・発達に重要な役割を担っていることを示唆する結果を得ています。本研究成果はイタリア国内外の研究會にて報告し、その幾つかではchairを努めました。また、当研究室在籍中に、共同研究を平行して行い、これら研究

は論文投稿中および執筆中であり、近日中に良い結果が来ることを願っているところです。留学中、Prof. Scorranoや同僚との活発なディスカッション、また、それぞれの知識・技術の融合が、私にとって非常に大きな経験・財産になりました。また、これは恐らく留学経験者のほとんどが感じるのだと思いますが、自分の意思を躊躇せずストレートに伝えることがいかに重要かということに折に触れて感じました。一方、オンとオフを明確に分け、プライベートライフを充実させているライフスタイルに感銘を受けました。私も同様な生活をしていく中で、生産性の向上にはこのような意識が必要なのだと改めて感じました。今後もパドヴァで行ってきた研究を継続し、この留学で得た経験、VIMMおよびパドヴァ大学とのネットワークを生かし、発達障害の病因・病態解明に少しでも貢献できるよう努めてまいります。今回、このような貴重な留学をご支援いただいた小児医学研究振興財団にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



研究助成金

- ① 小児科領域全般
1件200万円以内 総額700万円
- ② アサヒグループ食品(乳幼児栄養)
総額100万円 2件程度
- ③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む)
1件100万円以内 総額300万円【新設】

海外留学奨学金

- ① 小児科領域全般に関する研究
総額350万円【新設】
- ② 子どもの心の問題に関する研究
1件150万円

優秀論文アワード

日本小児科学会、日本小児神経学会、日本小児精神神経学会及び日本小児心身医学会機関誌に掲載された原著論文のうち、優秀論文の筆頭著者を褒賞。

※応募要項は4月中旬から財団ホームページにてご覧いただけます。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二 旭 壮一郎 安次嶺 馨 東 寛 足立 雄一 熱田 裕 鮎沢 衛 新垣 義夫 荒川 浩一 有賀 正 飯島 一誠 飯塚 幹夫 五十嵐 隆 池本 博行 石井 尚吾 石井 正浩 石崎 朝世 位崎 忍 井田 博幸 井田 孔明 板橋家頭夫 市田 路子 市橋 光 伊津見 梓 逸見 睦心 伊藤 悦朗 伊藤 秀一 伊藤 未志 伊藤 進 伊藤 辰夫 伊藤 保彦 伊藤 雄平 稲垣 由子 稲葉 博士 井原 健二 井原 幸子 今井 秀人 今村 俊彦 岩田 敏 岩田 力 岩元 二郎	内田 正志 内田 祐子 宇理須厚雄 江口 尚彦 衛藤 隆 衛藤 義勝 遠藤 文夫 小穴 慎二 老田 礼子 尾内 一信 大賀 正一 大川 洋二 大澤真木子 大久保美登里 太田 節雄 太田 秀臣 太田 晨 大塚 正純 大野 耕策 岡田 純一 岡田 満 岡部 一郎 岡本 博文 小川 俊一 小川 潤一 沖 学 奥山真紀子 小栗 絢子 小田 慈 小田切美知子 小野 厚 小野 靖彦 賀川 治美 加治部 正行 勝部 康弘 加藤 達夫 賀藤 均 加藤 誠 加藤 正彦 加藤 陽子 門脇 弘子	金子 一成 加納 芳郎 鴨下 和子 河 敬世 河西 紀昭 川口 浩史 川又はるみ 神崎 晋 貴田 節子 北中 幸子 北本 育子 木野 稔 木村 宏 隆 隆 日下 聡 楠田 浩一 楠原 浩一 久藤 協志 工藤 政勝 倉辻 忠俊 郡 建男 小池 健一 小泉 晶一 小泉ひろみ 河野 幸治 河野 陽一 河野 祥二 香山 潤 香山 洋子 興梠 ひで 児玉 浩子 後藤 彰子 後藤 敦子 後藤 雄一 小林 繁一 小林 正夫 小山 典久 小山 佳紀 齊藤 伸治 齋藤 博久 佐伯 進一 嵯峨 六雄	酒井 規夫 酒井 康成 坂本 由美 佐久間弘子 櫻井 嘉彦 佐々木 望 椎谷佐由里 四方あかね 重松 陽介 柴田瑠美子 嶋田 泉司 清水 俊明 下条 直樹 下村 国寿 白井 真美 白石裕比湖 白川 嘉継 末延 聡一 杉本 徹 杉本 久和 鈴木 敏雄 鈴木 康之 鈴木 英太郎 鈴木 亮 須田 憲治 須磨崎 亮 関野 佳紀 関野 秀俊 瀬島 齐 高島 俊夫 高橋 協 高橋 孝雄 高橋 勉 滝沢 琢己 滝沢 順子 宅見 徹 竹重 博子 竹島 泰弘 武知 哲久 竹広 茂子 田島 剛	田中 篤 田中 なみ 田中 英高 田中 浩 玉井 浩 田村喜久子 田村 正徳 千田 勝一 長 和彦 長 秀男 塚田 明子 土屋 與之 堤 裕幸 鶴澤 正仁 手塚 正雄 寺井 勝 寺門 道之 寺田 春郎 寺本 貴英 遠山 拓郎 戸苺 創 外木 秀文 富沢 修一 永井 崇雄 永尾 尚子 永島 哲郎 中坪 希美 中村 公俊 中畑 龍俊 中原 智子 成田 雅美 新津 直樹 西澤嘉四郎 新田 康郎 布井 博幸 橋本 和廣 長谷川奉延 長谷川行洋 長谷川俊史 長谷川茉莉 長谷川美香 羽田野爲夫	服部 元史 馬場 常嘉 早川依里子 原 寿郎 原 正守 張田 豊 波呂久美子 日暮 眞 平尾 敬男 平山 雅浩 廣瀬 伸一 廣津 卓夫 福重淳一郎 深澤 隆治 福永 慶隆 藤井 達哉 藤枝 幹也 藤岡 雅司 藤木 伴男 藤田 弘子 藤野 滋 藤原 匠 二村 真秀 船戸 正久 船曳 哲典 舟本 仁一 平家 俊男 別所 文雄 保坂シゲリ 星加 忠孝 星加美恵子 保科 弘毅 細井 創 堀川 玲子 堀川 仁志 前川 喜平 前多 治雄 前田 美穂 正木 拓朗 松井 陽 松尾 宣武	松尾 雅文 松平 隆光 松永 伸二 丸山 剛志 丸山 博 三池 輝久 水谷 修紀 南沢 享 三牧 正和 宮島 祐 宮代 英吉 麦島 秀雄 村瀬 雄二 村田 要一 本村知華子 元山 福祥 森 哲夫 森内 浩幸 森尾 友宏 森川 昭廣 森口 直彦 森下 秀子 守田 利貞 森田 友明 森脇 浩一 師井 敏裕 八木 信一 安田 寛二 柳川 幸重 柳澤 正義 籾内 弘 山内 穰滋 山川 毅 山形 崇倫 山口 清次 山下 薫 山下美代子 山城雄一郎 山下裕史朗 山田 恭聖 山野 恒一	山本 圭子 山本 威久 山本 玉路 山脇 英範 横田俊一郎 横田 俊平 横谷 進 横山 義正 吉岡 和之 吉岡三恵子	吉田 康子 吉田ゆかり 芳野 信 吉原 重美 脇口 宏 和田 和子 渡邊 信雄 渡辺 禮二 渡部 礼二
---	---	---	---	--	---	--	---	---

賛助会員(法人)

アサヒグループ食品株式会社
エーザイ株式会社
MSD株式会社
杏林製薬株式会社
Story of the tortoise株式会社
第一三共株式会社
帝人ファーマ株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

アサヒグループ食品株式会社
アステラス製薬株式会社
JCRファーマ株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボルディスクファーマ株式会社
マルホ株式会社

寄付

GLOBAL FOUNDATION
FOR LIFE SCIENCES

当財団の事業は、賛助会費及び寄付金で実施しています

賛助会費は、所得税控除または税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

「子どもの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

平成31年4月20日、金沢市において、例年のごとく、平成28年度研究助成金受領者のポスターセッション並びに平成20年度、表彰式が予定されています。更に、本年度は本財団設立10周年記念事業として、日本小児科学会との共催により、平成31年4月21日、「小児医学研究振興財団の国際交流活動：世界に羽ばたく小児科医の育成に向けて」を企画致しました。多数の会員の参加を期待いたします。また、引き続き当財団に対するご支援をお願いいたします。

(常務理事 松尾 宣武)